

北区岩淵周辺地区かわまちラボ-第2回-

議事要旨

日時：令和8年3月18日（水）15:00～

場所：荒川下流河川事務所1階 アモアホール

1. 開会

2. 出席者

ラボメンバー：21名（座長・副座長・オンライン参加含む）

事務局（北区まちづくり推進課）：6名

オブザーバー：4名（シティブランディング戦略課・しごと連携担当課・産業振興課）

3. 議事

（1）第1回かわまちラボの振り返り

○資料説明【本編資料：1～9】

○質疑応答：

- ・オープン化について、事業性をどのように高め、継続させるかが重要である。オープン化により、民間団体の収益事業ができるようになることは非常に大きいため、今後、事業性をふまえて活動を進めていただきたい。ボランティア活動による持続という考え方もあると思うが、切り分けをしないと進行が難しいように思う。

（事務局）

- ・今回は空間活用やエリアの魅力発信を議題としたが、オープン化の区域における運営のスキームについては、次回以降の議題として検討していく予定である。

（座長）

- ・オープン化区域の運営者や活用者が、サインツールをうまく活用できるとよい。河川敷の活動について、地域の方が知らないこともある。看板なども事業者が活用できるスペースの確保・運用も、視野に入れて考えてほしい。
- ・区内でも様々な誘導案内ツールの事例がある。例えば渋沢通りでは道路のラッピングが導入されており、参考にできるとよい。他のエリアの取組みも、ぜひ共有いただきたい。

（2）第2回推進検討会での検討内容について

○資料説明【別冊：第2回 北区岩淵周辺地区かわまち推進検討会資料】

○質疑応答：

（座長）

- ・検討会では、オープン化区域をつなぐ道路も含めた一体的な許可申請の可能性など、オープン化区域の運用方法が大事だという意見があった。またベンチなどの設置方法（常設・

仮設) や設えについての話が出た。その他、土手の面の滞在空間としての有効活用、バリ
アフリーへの配慮など、量と質のバランスがより検討されるとよい。

(メンバー)

- 水上アクティビティへの動線は検討されているのか。

(事務局)

- 親水護岸の位置については、現在荒川下流河川事務所で検討中のため、位置が決まり次第共有する。

(3) 本日の活動①(空間活用についてのグループワーク・意見交換)

○資料説明【本編資料：10～21】

○班別発表：

【A班発表】

- 「どのタイミングで、どういう楽しみとか使い方があるのか」を自由に書き出し、それをどのようにパッケージとしてまとめていくかを話した。パッケージを具体的に提案するというよりは、来た人がコンテンツを自分で選び、自分なりのパッケージを作って1日遊んで楽しんでもらう、というような考え方がいいのではないか、という考えで整理した。
- どれだけ滞在時間を長くしていただくのかという観点では、軸として、対象を考える必要がある。子供、大人、家族、インバウンド、それとも日々不特定多数でくる個人か、学校団体なのか、対象によって考え方・売り方・作り方が全く変わってくる。今日の段階では、ここで何ができるのかを整理し、次の軸として、それが教育的なものなのか、楽しいレジャー的なものなのか、そういったものを最終的に組み合わせてパッケージにできればよい。どうすればお客様が自由にパッケージを作ることができるか、団体へのパッケージについては、旅行会社との窓口はどうすればよいかなど、諸問題はこれからみんなで考えよう、ということで終わった。

【B班発表】

(事務局・ファシリテーター)

- 議論のポイントについて紹介させていただくと、ターゲットについては、個人での過ごし方に加え、団体に着目した意見があった。子どもに関しては「小学校の学年単位(例：林間学校のような探求学習)」や、企業に関しては、「ワーケーションの一環」でまちの資源(レンタルスペース)も活用しながら来てもらうなど、単純に仕事をするだけではなく、かわでのアクティビティやまちでの滞在体験も含めてパッケージも作れるのではないかと、という意見があった。
- 時間帯での観点では、かわとまちが分断されず、時間帯によって垣根を越えてかわからまちに出てくる動き方が共通の意見だった。特に夜の過ごし方が朝から昼、昼から夕方時間帯よりたくさんアイデアがあり、かわに限らずまちなかでも、お酒を飲む、まちの中のレンタルスペース(古民家)を借りながら、など色々な過ごし方のアイデアが出てきた。

- 特別感、今あるルールを少し規制緩和的に超えてみる、といった視点では、例えば amoa の開館時間のこと、amoa で宿泊する、あるいは河川敷で焚き火のような少し火が使えるようになるといった意見があった。

(B 班メンバー)

- 団体の利用としては、宿泊も含めて百人規模でできるのではないかという案もあった。親からすると、子供を預けて自分もリラックスしたいというところも、パッケージ化できるとよいという話が出た。規制緩和で、amoa でカフェだけではなく、バーベキュー、ビアガーデンができれば、もっと夜の活動ができるのではないか、との意見があった。まちに目を向けると、一人で入りにくいような居酒屋にガイドをつけて一緒に行ってもらおうといった話も出ていた。子供、親子、あとは企業に売れるようなものが作れるとよい。

【総評】

(副座長)

- B 班の議論を主に聞いていた。机上の空論ではなく、実際にある地域の資源、空間の特性、さらにメンバーの活動を組み合わせていくと実現できそうなことがわかった。もっとたくさん議論をして、より具体的になればなるほど、もっと面白くなり、もっと色々なアイデアが出て、色々なことを共有できると思う。実現するためには、このルールが制約となる、このぐらいの金額が必要である、この時期にやった方がよい、誰をパートナーにするか、といった議論につながっていくと、実現しそうな道筋が見えた。引き続きこのような議論ができるとよい。

(座長)

- A 班の議論を主に聞いていた。メンバーの色々な武器を活用する、パッケージの中でも、必ず環境インフラが必要になる。どのようなイベント・事業でも、食事、トイレは必要で、少し日陰で休めるところとして amoa のような施設が重要である。平日の活用の中で、ピクニックセット、遊具の貸し出しなど、施設があることによってできることの内容が増える。メンバーが事業者のため、ペルソナなど現実性を持って話ができている。できることの 1 日のパッケージを、ホテルにある滞在の 1 日の流れのようなものを真似した形で、このかわまちラボでも作っていかうとしているが、実際に事業者の目線を見た時にどのようなメリットがあるのか、まちの中で展開されるにはといった、かわとまちの連携は、まだ議論の余地があると改めて感じた。次回、この話にはホテルの事業者にもぜひ入ってもらい、宿泊者の過ごし方の目線も入れた方がよいと思った。パッケージ案に関しては、引き続き色々な事業者にアンケートのお願いを続けてもよいのではないかと。
- 本日いただいたご意見をもとに、令和 8 年度の活動を進めていきたい。

(4) 本日の活動②（エリアの魅力発信・PRについて意見交換）

○資料説明【本編資料：22～24】

○質疑応答：

- ・インターネット上の発信について、埼玉高速鉄道の25周年やJRと連携して北区中に発信することがあってもよいと思う。
- ・インターネット上であれば、面白いものを作れば拡散されると思う。
- ・第三者がやった方が価値が高まると思う。赤羽経済新聞で特集記事はできる。
- ・まいぶれ北区で特集記事はできる。

(座長)

- ・ローカルメディアからの発信が地域に向けては届きやすい。同時に、一般の方々がどうやって自分たちでも発信していくか、につなげていくことも大事である。現在やっていること、これからどうなるのか、を通りかかった人に伝えることも含めて、魅力発信を考えないといけない。新河岸川が工事していた時、外にデジタルサイネージがあり、非常に良かった。工事が始まる前から終わるまでの間ずっと、工事の構造や期間がしっかりとわかるような形でパースの映像が流れていて、かなりの方々が立ち止まって見ていた。現在このかわまちラボが行われていること自体を河川敷のどこかで発信できれば、通りかかった人がふと見るようなものであれば、発信ツールとなりうる。赤羽イノベーションサイトのデジタルサイネージにも、通りかかった人が見ていただけるような動画を作っていくこともありえるのではないか。

4. 今後のスケジュールについて

○資料説明：【本編資料：25～26】

(事務局)

- ・4月18日の午前中に北区・子どもの水辺の開園21周年イベントが予定されている。そちらの視察と合わせて、堤防天端部分に椅子を持ち込むなど動線の試行と、芝桜等ビュースポットの検証を実施できればと考えている。この時期はイベントなどを控えられているメンバーの方もおられるため、任意参加で考えている。

(メンバー)

- ・4月の第三土曜日に毎年、開園記念イベントをやっている。一般の人の見学を受け入れ、子どもの水辺の活動の紹介等とあわせて水辺を見ていただく。水辺からシバザクラがよく見えるが、道路から少し離れているため、水辺の存在を知らないとなかなか入ってこない。そのあたりのスポット紹介ができる。
- ・バーベキュー場の椅子の貸出は協力できる。

(事務局)

- ・本日のグループワーク・意見交換の結果をふまえ、24頁でお示しのとおり、パッケージプログラムの検証を軸に公共空間活用について、メンバーによる検証を積み重ね、8年度

末に、地域の方々にも関わっていただきながら活動の成果検証につなげていきたい。本意見交換させていただいた、情報共有・発信ツールの試験運用については、5月以降順次着手できればと考えている。サイクルポートの設置については、一定期間検証が必要とのお話をいただいているため、順次手続きを進め、令和8年度早めに導入へ進行したい。Open Street(株)さま、(株)Luupさま、また荒川下流河川事務所さまには引き続きご協力をお願いしたい。

- なお、第3回の活動について、5月15日で調整する。本日の議論の内容をまとめた上で、メンバーの皆さんに共有・整理し、検証を進めていきたい。

○質疑応答 :

(座長)

- 情報共有ツールについて、ハードルの低い方からスタートする形で、3月から発信してもよいのではないか。4月の春先からの桜の時期、そしてゴールデンウィークの時期、夏に向けて、メンバーも発信や協力ができるのではないか。

(事務局)

- LINE オープンチャットの準備に着手し、始動できるタイミングでお知らせする。

(座長)

- 情報発信ツールに関しては、個人で「#かわまちラボ」などをつけて投稿いただけるとよいのではないか。

(副座長)

- 本日、このラボが持っている資源を共有でき、今後何をやっていくのか、イメージが具体的にになってきた。本日の議論の内容などをしっかりと蓄積して、後で参照できるようにすることが大事である。

(座長)

- ラボとしての資源は、このかわをすでに活用している方々が一緒にこの場にいることである。メンバーで情報交換できるようになった後は、コラボレーションする形がどんどん出てくると思う。
- ラボの開催日だけでなく、日常的にメンバーの関係性が高まると連携しやすいかと思う。指定管理者や行政が揃っているため、質問があればスピードを持って進められる。全体の活動以外にも、個人的にも活動に参加させてもらうことを積み重ね、ラボを有意義な活動とできるとよい。